

会 議 録

会議の名称	平成29年度 第1回 和泉市生涯学習推進委員会
開催日時	平成29年 7月14日 (金) 午前10時から
開催場所	和泉市役所3号館3階 委員会室
出席者	別紙名簿のとおり (9/10名出席)
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委嘱状の交付 2. 生涯学習推進委員紹介 3. 教育長挨拶 4. 和泉市生涯学習推進委員会規則及び組織、事務局紹介について（確認） <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の役割の説明、組織概要の説明 5. 議事 委員長および副委員長の選任について 6. 案件 <ol style="list-style-type: none"> ①平成29年度いずみ市民大学の状況について（報告） ②第2次和泉市生涯学習推進プランにおける課題の整理について <ul style="list-style-type: none"> ・プランの実施状況の説明 ・「知の循環」における還元の場作りについて 和泉市生涯学習人材データベースの活用について
会議の主旨	
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他
その他の必要事項	

■ 審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 委嘱状交付

任期満了に伴い、和泉市生涯学習推進委員会規則第3条の規定に基づき、和泉市教育委員会より生涯学習推進委員候補下記9名（敬称略）に委嘱状を交付。（吉岡氏は欠席のため、後日お渡し）

和泉市文化協会：黒川 ツヤ子、和泉市PTA協議会：本多 真紀

和泉市こども会育成連絡協議会：福田 昌文、和泉市こども会リーダークラブ：門林 弘季

和泉市青少年指導員協議会：駒澤 重信、和泉市体育協会：恵山 文孝

桃山学院大学 経営学部 准教授：井上 敏、市民公募：芦田 三雄

市民公募：利倉 康紀、いずみ識字ボランティアの会：吉岡 隼平（欠席）

2. 生涯学習推進委員紹介

出席委員の紹介。

3. 教育長挨拶

教育長の藤原でございます。本日は本委員会にご参集いただき、誠にありがとうございます。平成28年度には「いずみ市民大学」を開学いたしました。今年度からの委員皆様には、学んだことを生かす場作りについて、どうぞ活発なご議論をいただきますようお願いします。

4. 和泉市生涯学習推進委員会規則及び組織、事務局紹介について（確認）

和泉市生涯学習推進委員会規則

本委員会規則について簡単に説明。組織については、委員に名簿を配付し、構成員の説明。

事務局紹介

事務局職員について説明。今年度事務局は下記のとおり。

和泉市教育委員会教育長 藤原 明、

和泉市教育委員会事務局生涯学習部長 中田 康夫

和泉市教育委員会事務局生涯学習部次長 土本 英也

和泉市教育委員会事務局生涯学習部 生涯学習課長 西角 雅士

和泉市教育委員会事務局生涯学習部 生涯学習課長補佐 兼 生涯学習係長 橋本 吉人

生涯学習課 生涯学習係 主事の柿島 愛美

出席人数確認

事務局より、委員総数10名のうち出席委員9名となっており、本会議は成立していることを報告。

5. 議事 委員長および副委員長の選任について

委員長が選任されるまでの間、本議事の進行は事務局が担当。規則第3条第3項において、委員会に委員長及び副委員長各1人を置くこととなっており、選任方法については、委員の互選により定める。

立候補・推薦等ないかを確認 → 恵山委員から駒澤委員を推薦。

他委員から異議なしのため、提案どおり委員長は駒澤委員に決定。規則第3条第4項の規程により、駒澤委員長を本会議の議長とした。

委員長：続いて、副委員長について、立候補か推薦はないか。特になければ、井上先生を副委員長に推薦したい。 → 他委員から異議なしのため、提案どおり副委員長は井上委員に決定。

委員長：「次第6、案件①平成29年度いずみ市民大学の状況について（報告）」事務局より説明願います。

6. 案件

①平成29年度いずみ市民大学の状況について（報告）

事務局：いずみ市民大学教養学部・まちづくり学部のチラシ参照。市民大学は平成28年度開学。市民カレッジは教養学部として継続し、まちづくり学部を新設。昨年度は、両学部合わせて定員を超えた申込があった。今年度は、まちづくり学部定員各25名ずつのところ、エリア学科9名、テーマ学科21名で定員割れ。

現在の学部ごとの受講者数

教養学部：平成29年度前期講座は300名定員で302名申込。

- ・ニュース・事件で考える法：33人
 - ・偉人の目からアベノミクスを斬る：26人
 - ・世界の文学：48人
 - ・古くて新しい！！伝統芸能への誘い：68人
 - ・仏像魅力発見「仏師の系譜そして仏像の謎をさぐる」：72人
 - ・英語にまつわるエトセトラ：55人
- 後期の講座については資料が手元にきておらず、内容不明。大学の内容については、後ほど議論したい。

②第2次和泉市生涯学習推進プラン（以下、プラン）における課題の整理について

事務局：プラン記載の施策等を精査していきたい。プランの基本目標達成に向けての3つの施策の柱の具体的な施策内容について、対応する本市の実施事業とその達成状況を説明する。

資料3 第2次生涯学習推進プラン 施策の体系参照。プランは18ページ以降参照

4章-1. 生涯学習の場の整備・充実

■ 1. 全市を学習圏とした生涯学習拠点施設の整備

(1) 生涯学習センター機能の充実、(2) 各種の学習拠点施設の機能の充実

各施設にて実施。和泉市生涯学習人材データベース（以下、データベース）を本課窓口にて実施。

■ 2. 4つの地域を学習圏とする学習施設の整備

施設間の各種情報の共有は、チラシ配布等で実施。それ以外の連携については、検討中。

■ 3. 身近な学習圏における学習施設の充実

学校施設の生涯学習活動の場としての活用→「げんきっ子プラザ」事業。高齢者の生涯学習の拠点→ねんりん大学、各種講座等、市民大学。

■ 4. 生涯学習施設等の連携と学習環境の整備

市民大学に桃大から講座提供。学習機会の体系化は、公共施設の講座が主に入門、市民大学が専門的内容。

4章-2. 学習機会の充実

■ 1. ライフステージに応じて、■ 2. 社会的な課題に応じて提供される各種学習機会
→関係各課の所管事業により実施。

4章-3. 学習支援機能の充実

■ 1. 学習情報提供機能の充実

情報をインターネットの活用などにより提供 → 広報および各施設のホームページにて実施。

■ 2. 学習相談機能の充実

相談機能を充実 → 各施設で実施。

学習をバックアップする人材の育成 → まちづくり学部卒業生の知の循環を目指す。

■ 3. 新たな学習手法の推進・普及

親学習講座→ワークショップ、市民大学まちづくり学部→フィールドワーク

■ 4. 市民ニーズの把握

各種講座、講演会等時にはアンケートを配布し、意見や要望を次回実施時にフィードバックしている。

4章-4. 自主的な学習活動の促進

■ 1. 市民の主体的な参画の促進、■ 2. 民間との連携による学習機会の拡大

まちづくり学部の提供講座により可能。人材データバンクの登録講師の活用については、調整中。

■ 3. 学習成果の評価と活用の促進

「マナビィ」「マナビィヘルシィ」マークをまなびの手帳で管理し、ココロトリコイズミ生涯学習カードにポイント加算か、または検診無料券を進呈する。指導者の登録制度は、データバンクで実施。

4章-5. 地域づくり学習の充実

■ 1. 地域における連携体制の強化 → 地域教育協議会やPTAなどの活動において実施。

■ 2. 地域主体の学習活動の促進 → まちづくり学部の目的。卒業生の活動を今後支援する予定。

4章-6. 人づくりの充実

■ 1. 学習を支援する人材の充実

知識や技術の習得のための講習・講座→関係各課で実施。修了者の実践の場→第1期生が講義内で部分的に実施予定。データバンク→平成24年～現在登録者数が45名、増加が課題。

4章-7. (仮称)生涯学習大学の設置と生涯学習の体系化

■ 1. (仮称)生涯学習大学の設置について

H28年度から「いずみ市民大学」として正式に開学。まちづくり学部卒業生に卒業証書を発行。

■ 2. 生涯学習の体系化について

学習圏ごとに同水準で相互に補完できる学習プログラムを調整 → 検討中。

関係機関・団体同士の連携 → サポート講座で各課と連携。大学・NPO等から講座の提供。

4章-8. 生涯学習体制の充実

■ 1. 生涯学習推進委員会の充実

生涯学習政策の総合的な推進に向けた協議・調整を行う機関としての役割を今後も推進していく。

■ 2. 連携体制の整備

施設同士、大学、NPO等との連携体制については、「生涯学習の場の整備・充実」で述べたとおり。

資料3の表中に太字で記載している部分は、現在、本課にて、調整中または今後の課題と判断している事業。事務局としては、「知の循環」の還元・貢献の場として、データバンクを重点的に充実したいと考えている。委員長：質問等ないか。

芦田委員：昨年度市民大学を受講したが、それだけでは地域に還元するには未熟。継続的な大学、卒業生との連携等を通じて、卒業生が一つのことをできたと思えたら自信がつく。

委員長：卒業生で学友会を作った。その中で自己研鑽しながら、地域に返してほしい。

事務局：橋本です。芦田委員の知の循環における還元の間づくりに関して。市民大学開学の次のステップのために、行政主導ではなく、市民自らが実践する生涯学習のまちづくりにしたい。知の循環の還元の間として、卒業生が活躍できるものがあつたら意見を聞きたい。

門林：学んだ事を他の人に伝えるのは、一人では難しい。新たな何かがあるのでは。

芦田：一つのテーマを作つて関わりたい人を集め、市から知恵をもらいながら前に進めて行けたら。

利倉：学友会では、まだ何をしたらいいかわからない人が多い。テーマを決めて、皆で向かうのもいい。

駒澤：学友会に市が主導で何かするのは難しい。個人的には学友会の活動でテーマを決めて、市や大学にお願いして、より深める勉強の間を作ることも可能だと思っている。学友会にも提案したい。

教育長：還元をあまり難しく考える必要はない。ここで何かをするのではなく、繋がりを作ることでまちづくりが出来たりする。各団体で活動してきた人もそうでない人も、まちづくりの基本を学ぶことで何か出来るように、学友会がその核となるようにしていきたい。

恵山：学友会はどこでどう集まっているのか。平均年齢はどのくらいか。

利倉：基本はメールで連絡、無理ならFAXや郵送。会場はカフェオアシス。今年の卒業式後、謝恩会をやつ

たので継続的に利用。年代は、30代が7、8人、50代～70代の方もいて幅広い。20代は多分いない。

井上：生涯学習という言葉は、全ての年代が対象。市の施策も大学生より下を含めてできる事を考えた方がよい。市民大学の目的は、自分から地域に関わりたい人を作ることだから、そういう視点を入れて。

芦田：まちづくりという名の下に、地域で何かをしなければと思っていたが、人との繋がりが出来ることに意味があるなら、団体に大学との関わりを持つようと声をかけるのもいい。

駒澤：今年は参加者を募る際に、各団体へ声かけに回った。来年もやらなければと思っている。現在も募集中。

利倉：昨年は両学科が卒業直前に一緒にチームを組んで発表したが、あまり期間がなかった。今年は少人数だからこそ、早いうちから交流し、合同講義で再合流の後スタートしやすくするつもり。

事務局：橋本です。まちづくり学部は、選択性、仲間意識を強くする、フィールドワークの人数の問題等の理由から二つにした。次年度以降は未定だが、一つの学科にするのも案。井上先生のご意見はどうですか。

井上：画一的にしないようにすればどんな展開でも良い。どうするかは、参加している人が決めた方がよい。

事務局：学友会にどんな講座を実施するか今後相談しながら、大学作りを進めて行きたい。

駒澤：還元の間として、学友会に文化祭での発表の間を作ることを考えている。

事務局：委員長からの提案について。第1期の10月27、8、9日で展示する文化祭第1期で部屋を用意できる。あくまで場所の提供で、内容はお任せする。可能性の一つとして考えていただければ。

事務局：土本です。まちづくりのテーマで〇〇しなければならぬとすると、動きが取りにくい。そうではなく、生涯学習の概念は自ら学ぶ、いつでもどこでも学べる環境を実現しようというもの。自分が学びたいことを発信していく点から、発表の間の提供も生涯学習の一翼を担っているので、支援させていただいたら。

利倉：教養学部の方では卒業された方が集まるのか。

委員長：教養学部は市民カレッジの延長として、あくまでも学びたい人が学ぶ場で、集まりはない。

芦田：資料3の4-2のライフステージに応じた学習機会の充実は、どんなものをお考えか。

福田：教育関係に関しては、一つの目的に向かう活動が大事。地域での問題に自分が答えられるかは難しい。

芦田：他との連携は。

福田：他との連携は薄い。地域に返すのは、一人で学んで何かをするという意識が強いと何も出来ない。団体に入っていくのがいい。人同士のつながりが出来る。

本多：PTAは保護者の集まり。興味のない人をいかに引き込むかが大切。無理やりでも一歩踏み出すと、興味を持つ人が何人か出てきて広がっていく。地域差はあるので、市全体で同じ温度で取り組めたら。

門林：リーダークラブでも学生ボランティアの子と何が還元なのか話し合った。自分たちの還元は、ボランティアに戻るのではなく、地域や世界に出て行くことだと考えている。

恵山：こども会とリーダークラブは違うのか。

福田：リーダークラブは昔こども会の中に置いていたが、今は組織が別。

門林：リーダークラブには、こども会に属していない人もいて、どちらかという和泉市に還元と捉えている。子どもたちがリーダーになって学び、次の子に教える、市民大学となんら変わらない。

委員長：全体を通じて質問、報告事項等はないか。

以上で、本日の議事はすべて終了しました。これをもちまして、本日の生涯学習推進委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

以上。

平成29年9月8日

黒川ツヤ子

本多真紀